

春は新鮮な気持

「地域に役立つことをしていきたい」とつえの会会長の鹿島喜美子さん（柳作・62歳）



ボランティア・サークルつえの会は昭和60年に結成されました。私は結成当時から会員でした。第一の人生を務め終え、第二の人生は少しずつ皆さんにお返しをしていきたい、そう思って活動してきたのです。この4月からつえの会の会長を務めることになりましたが、会の中の各グループのリーダーの皆さんがしっかりしてますので、私でもやっていける、とお引き受けしたのです。つえの会に限らず、地域の中で役に立つこと、喜ばれることは進んでやっていきたいと思っています。

合唱サークルでピアノを弾く宗村功さん（新田町・24歳）は「人のつながりを広げたい」。

昨年の6月ごろ、知人に引っ張られて、合唱教室のピアノの伴奏を始めました。自分でやれる程度なら、ボランティアのつもりでしてみようということでしたが、今も続けています。一人で弾いているより大勢の人が歌ってくれる方がやはりいいです。現在、会員は約40人。4月からまた会員を募集するのですが、若い人がどんどん入ってきてほしい。私はいろんな人と知り合うことができました。これからももっとつながりを広げ、町の文化を高めるのに役立てれば、と思います。



あなたと
町をつなぐ
広報

くさき

1990
4
No.319

婦人協議会を「気軽に参加できる勉強の場」と新会長の萩野文子さん（板井4・64歳）



婦人協議会の目標は、①婦人の地位向上をめざし、自己啓発に努める。②会員同士の親睦をはかり、連帯の中で明るい家庭、明るい地域づくりに努める。③青少年健全育成運動に協力する、などといったことです。今は女性の地位が多少あがったようですが、反面思いやりや連帯感に欠けているようです。そうしたものを取りもどすためにも、勉強の場・社会活動の場として、気軽に参加できるようにしたいですね。そこで個人加入を募集しています、興味ある人は教育委員会まで連絡を。

「これからも自由な、わかりやすい絵を描いていきたい」と氏田芳巳さん（善久・37歳）

2年前に県展作家作品展を開くということで、油絵の絵筆を十何年ぶりかで取りました。作品展には、わかりやすい絵、これを見ておれにも描けると思われるような絵を、ということで描いたものを出品。賞をとるとかそんなことより、自分が楽しめればいい、やりたいことをやるべきだ、と思って描いてきました。やりたくないことはやらなくていいのです。これからは、自分の子供といっしょに絵を描けたらと思いますし、作品展には今後も自由な作品を出していきたいと思っています。



ちで

私の抱負